

### ギリシア神話の星たち

博物館(museum)の語源は、ギリシア神話で文芸を司る女神ムーサと言われています。その他にも、星の名前、文学、商品名に至るまで、ギリシア神話に由来する言葉は、私たちの生活の様々な場面に浸透しています。9月から投影中のプラネタリウムでは、現在の私たちにも関わりのある、ギリシア神話にまつわる話題を取り上げています。



現在、私たちが使っている星座にも

ギリシア神話に登場する神々が描かれています。星座の起源は、古代メソポタミアにあると考えられています。それが古代ギリシアに受け継がれ、高い文化を築いていたギリシアの豊かな神話の中に取り入れられました。

また古代ギリシア人たちは、高度な天文学を生み出しました。星座は天文学とも深く関わっています。人々は天空で起こった変化が、地上で起こる出来事に関係すると考えていました。そこで天体の動きを詳細に調べ、その動きを説明する天動説を考え出しました。天動説では恒星は一番外側にあり、その中を月や惑星が複雑に動きます。恒星を背景の地図として星座を描き、位置の基準としたのです。

古代ギリシアの人たちは、どんな想いで星空をながめたのか。今回のプラネタリウムでは、神話の星たちを通して、古代ギリシア人と宇宙との関わりについて探してみます。

企画・製作: 江越 航(天文担当学芸員)

### ブラックホール

今年は国際光年。ブラックホールを表す方程式でもある一般相対性理論をアインシュタインが発表してから100年目です。

というわけで、国際光年協賛企画として、プラネタリウム「ブラックホール」を投影しています(2012年制作)。

一般相対性理論が提唱された100年前には「ブラックホール」ということばもありませんでしたし、ブラックホールは机上の空論で、実際の宇宙には存在しないだろうと考えられていました。アインシュタインですら「無いだろう」と考えていたブラックホールですが、1970年代から観測されはじめ、今では100個以上、見つかっています。恒星ブラックホールと呼ばれる大きさ数10kmのものから、ほとんどの銀河の中心にあると考えられる巨大ブラックホールまで、サイズはいろいろで、宇宙には、それこそ「星」